



基本構想

いいだ未来デザイン 2028

2017 ▶ 2028
(平成 29 年度) (令和 10 年度)

策定：平成 28 年 12 月
変更：令和 6 年 12 月

長野県飯田市





目 次

1	いいだ未来デザイン 2028 策定の考え方	1
2	いいだ未来デザイン 2028 の計画期間	1
3	いいだ未来デザイン 2028 の構造	1
	(1) 基本構想（12年間）	1
	(2) 基本的方向（4年間）	2
	(3) 戦略計画（1年間）	2
	(4) 分野別計画	2
	(5) 各地区での取組	2
4	時代認識	4
	(1) 世界、国内の変化への対応	4
	(2) 受け継がれてきた「飯田の強み」「飯田らしさ」	4
5	基本構想（12年間）	6
	(1) キャッチフレーズ	6
	(2) 未来ビジョン	6
	(3) 人口ビジョン	8
	用語解説	13





1 いいだ未来デザイン 2028 策定の考え方

これまでの第5次基本構想基本計画（計画期間平成19年度から28年度まで）では、長期にわたって総合的かつ計画的に行政運営を進めるため、政策、施策、事務事業を網羅的に位置付けて、実施してきました。

しかし今日、人口減少問題などにより社会経済情勢が大きく変化する時代を迎え、先々の変化を予測しつくした長期計画の策定が困難な時代になりました。

このように先を見通すことの難しい時代にあっては、みんなが共有できる地域のビジョンを掲げ、そのビジョンを指針とし、多様な主体がそれぞれの現場で実践し、工夫し、また実践していくという経験を積み重ね、改革・改善していくことが大切となります。

私たちはこれまで、「地域経済活性化プログラム」や「地域健康ケア計画」など、飯田だからできる独自の仕組みを、多くの市民が関わり、つくり、実践してきました。これからの計画づくりは、ここにヒントがあります。

「いいだ未来デザイン2028」は、地域のビジョン実現に向けて市民、地域、事業者、団体、NPO、行政など各々の立場で「飯田の未来づくり」にチャレンジしていくための指針として策定しました。

2 いいだ未来デザイン 2028 の計画期間

平成29年度（2017年度）を初年度とし、平成40年度（2028年度）までの12年間とします。

3 いいだ未来デザイン 2028 の構造

「いいだ未来デザイン2028」では、基本構想部分にビジョンを掲げ、そのビジョン実現に向けて重点化した戦略的な取組と、分野ごとに総合的に対応する分野別計画での取組の2つのアプローチでビジョン実現を目指します（図1）。

(1) 基本構想（12年間）

ア キャッチフレーズ

みんなが共に目指すビジョンを実現するための行動指針として掲げました。

イ 未来ビジョン

12年後にみんなでも実現したい「くらしの姿」「まちの姿」を描きました。

ウ 人口ビジョン

未来ビジョンの実現に向けて、定住人口と交流人口の2つの側面から将来の人口を展望しました。



(2) 基本的方向（4年間）

ビジョン実現に向けて、前期、中期、後期の4年単位で戦略的かつ重点的に取り組むテーマを基本目標として設定します。

ビジョンの実現状況を確認する進捗状況確認指標を設定し、戦略の検討に活用します。

(3) 戦略計画（1年間）

ビジョン実現に向けて、基本的方向に基づいて毎年、分野横断的に戦略的かつ重点的に取り組むものを組み立てた計画です。

(4) 分野別計画

ビジョン実現に向けて、各分野において総合的に取り組むものを組み立てた計画です。

(5) 各地区での取組

「いいだ未来デザイン2028」の策定にあたっては、高齢化や少子化が進む人口減少時代において「どのような地区でありたいか」を人口規模も含めて改めて考えていただきました。そうした地区の思いや考えなどを未来ビジョン、人口ビジョンに織り込みました。

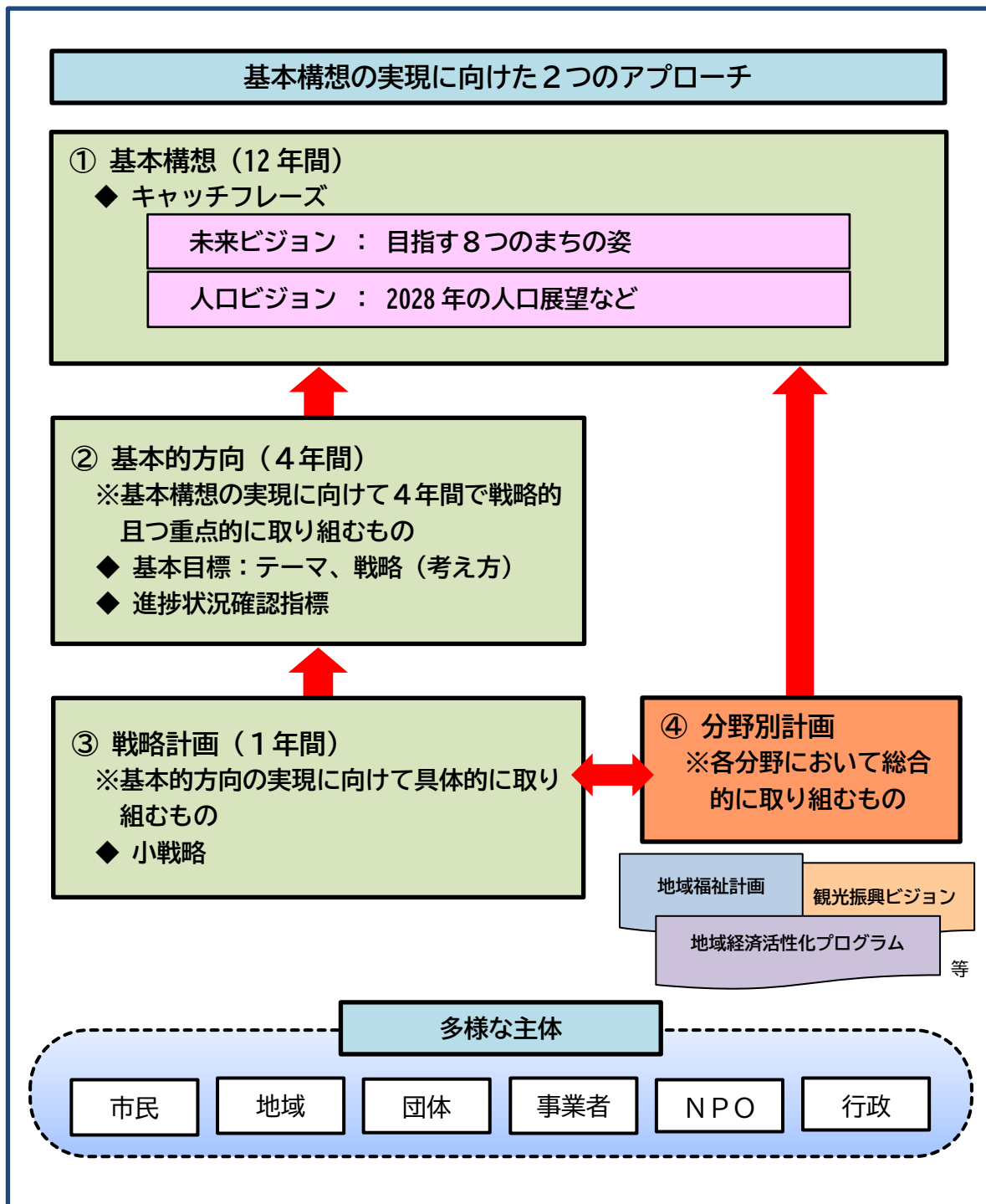
市内20地区では、これまでも「自分の“暮らし”や“まち”はこうありたい」という想いを描き、地区独自のまちづくりが行われ、個性ある20地区をつくってきました。この多様性が飯田の魅力であり、活力の源泉になっています。

当地域にはリニア中央新幹線開業、三遠南信自動車道全通といった高速交通網の時代も到来します。加えて「田園回帰」といった新たな動きも始まっています。こうした時代だからこそ、地区の魅力を高め、個性を磨いていく必要性がますます高まっています。

少子化、高齢化、人口減少の波が地域を包み、地区のまちづくりを難しくさせている状況もありますが、こうした中であっても、将来像を構想し「うちの地区ならできる」「うちの地区だからできる」という地区の取組を進める仕組みをみんなで作って、目指す将来像を実現したいと考えます。



図1 いいだ未来デザイン2028の構造



(1) 世界、国内の変化への対応

世界に目を向けると、人口は、アジア地域を中心に継続的に増加し、平成62年（2050年）には約90億人に達すると見込まれ、食糧・水・エネルギー問題が慢性化すると予想されます。また、人口構成における生産年齢人口の減少とともに、人材獲得競争の激化が進む見込みです。

また、国内では、人口減少、少子化、高齢化が進む中で、コミュニティや都市機能、財政・社会保障など社会経済システムを持続するための対策が求められます。一方で、リニア中央新幹線が形成する6,000万人の経済圏域（スーパーメガリージョン）がもたらす大規模な対流や、急激に進化してきた情報通信の技術などが、社会に大きな変化を与えていると言われています。

リニア中央新幹線が開通する将来、現在の若い世代は、働き盛りで、子育てをする年齢に達し、その後の社会の中心的役割を担うこととなります。この世代の新しい価値観は、日本人のくらし方、生き方にも大きく影響を及ぼすと考えられています。

変化の激しい大交流時代に、ヒト・モノ・カネの資源をいかした戦略的な取組が求められます。

(2) 受け継がれてきた「飯田の強み」「飯田らしさ」

飯田のまちづくりの姿勢

～飯田が持つ可能性を信じて、多様な主体が行動する姿勢～

私たち飯田市民は、時代の変化に対応して独自の文化を紡ぎ、多様で寛容な質の高いコミュニティを形成してきました。昭和22年(1947年)の飯田大火後の復興の際には、地元中学生の自発的な取組により、りんご並木がつくられ、その精神は人形劇のまちづくりなど様々なムトス活動に広がっています。

産業面では、元結に改良を加え、光沢のある丈夫な製品を作り出す水引産業に始まり、食品産業の発展、近年では市田柿の高付加価値化や航空宇宙プロジェクトなど地域経済活性化プログラム^{※1}による多様な産業政策を展開しています。また子育て支援や健康づくりなど協働によるくらしやすい地域づくりが進み、さらに地域環境権^{※2}による分権型エネルギー自治^{※3}の取組は、先進事例として全国的な注目を集めています。

これら飯田の特徴的な取組は、ムトスの精神に基づくものであり、飯田が持つ可能性です。この精神をリニア時代を担う若者たちに引き継ぐことが大切です。

ア 変化の激しい時代を生き抜く力の源泉 「学び」

変化のスピードが加速することから、変化に対応する行動が求められます。

飯田のまちづくりの姿勢は、学ぶことにあります。物事の本質を見極め、新風を取り入れて創意工夫による経験を積み重ね、応用する力を身につけます。私たちは、変化の激しい環境にあるからこそ、飯田で培われた学びの土壌で一人ひとりの「個」の力を蓄えることによって、地域全体で次代を生き抜いていきます。



イ グローバル時代に魅力を放つ価値の創造 「交流」

国際化、世代の価値観の変化が進む中では、個性を磨き、存在感を示すことが必要となります。

飯田のまちづくりの姿勢は、交流することにあります。広く交流しながら、内と外の地域を結び、相互を理解し、融合することにより、新たな価値をつくります。私たちは、大交流時代にあるからこそ、積極的な交流から飯田の強みや新たな価値を生み出し、世界に届く存在感を示します。

ウ 新たな課題を解決し時代を切り拓く 「共感」

本格的な人口減少の時代となることから、これまで地域が経験しなかったような人材不足などに始まり様々な課題を解決する必要があります。

飯田のまちづくりの姿勢は、共感することにあります。自分たちの地域は自分たちでつくる自主自立の精神や、当事者意識を持って協力し合う「結い」の心で考え行動します。私たちは、右肩下がりの時代にあるからこそ、自助・共助・公助を重層的に組み合わせて、地域の価値観を認め、支え合い、共感しながら、「ムトス」を合言葉に実りある未来づくりに挑戦します。

5

基本構想（12年間）

(1) キャッチフレーズ

リニアがもたらす大交流時代に「暮らし豊かなまち」をデザインする
～ 合言葉はムトス 誰もが主役 飯田未来舞台 ～

私たちは、常に時代の変化に対応し、私たちの知恵と力を結集させ、りんご並木に代表される自主自立の精神を基に、特色ある地域自治や環境への取組、経済自立度向上への挑戦など、飯田独自の仕組みをつくりだしてきました。

飯田の未来づくりには、一人ひとりのムトス^{※4}が大切で、それぞれに役割があり、そのどれもが欠かせないものです。

リニアがもたらす大交流時代を見据え、改めてムトスを合言葉として、いきいきと、「暮らし豊かなまち」と自らの思いをデザインできる、誰もが主役の「飯田未来舞台」をつくります。

(2) 未来ビジョン

これまで飯田が培ってきた文化によって、飯田ならできる、飯田だからできる、みんなでつくりたい「くらしの姿」「まちの姿」を8つの姿として描きました。

～ 目指すまちの姿 ～

私らしいくらしのスタイルを楽しむまち

- 都会との時間距離が大幅に短縮され、豊かな自然環境や文化の中で、都会での仕事と飯田での農あるくらしを両立し、質の高い地域コミュニティの中で人と人とのつながりを感じながら、家庭や地域も大事にしていける「私らしいくらしのスタイル」をつくって楽しんでいます。
- 日常生活文化圏を共有している南信州地域や三遠南信地域などの広域的な地域連携の取組が進み、くらしやすさを実感しています。
- 国内外からの移住者が増え、その一人ひとりが人権に配慮し、社会の一員として積極的に地域活動に参加し、交流を深めて担い手になっています。
- 中心拠点、広域交通拠点、観光拠点がつながり、住む人をやさしく包み、国内外から来る人をあたたかく迎え入れています。

人と人がつながり、安全安心に暮らせるまち

- 災害に強い社会基盤の確保と、最悪のシナリオの予測と備えにより、市民の生命、財産が守られています。



- 情報通信基盤の安定的な整備と飯田の強みである人と人とのつながりにより地域の中で一人ではないと実感し、穏やかに安心して暮らしています。
- これまでの経験や全国各地で発生する災害から、あらゆる対応策などを学び、知識・行動ノウハウを持った市民が育成されています。

健やかにいきいきと暮らせるまち

- 多世代の交流のつながりや一人ひとりの知恵や力をいかせる緩やかで程よいコミュニティにより、誰もが障がいのあるなしに関わらず、社会と関わり地域に貢献しながら、支えられ、見守られ、生涯を通じて自分らしい健康な生活を送っています。
- 市民、民間事業者、行政のつながりによる「医療・介護、福祉の連携体制」と「地域を支える医療環境」が整えられ、高齢になっても安心して暮らしを送っています。

学びあいにより生きる力と文化を育むまち

- 一人ひとりの好奇心に対応する様々な学びの場に多くの老若男女が集い、自分や地域の将来を考える活動に関わっています。その姿に学び、子どもたちもまちづくりに積極的に提案・行動し、社会の一員として地域に貢献しています。
- 飯田の学びの伝統をいかした人づくりにより、地域に誇りを持った人財が飯田や世界を舞台に活躍しています。
- 人形劇や伝統芸能に様々な立場で関わる人の想いが地域につながりを生み、文化活動を大切に心が世代を超え受け継がれています。
- 一人ひとりが楽しくスポーツに親しみ、人や地域が活力にあふれています。

地域の応援で子育ての幸せが実感できるまち

- 豊かな自然や文化、特色のある充実した教育や医療のある環境の中で、親が子育てに自信を持ち、地域もみんなで子育て・子育てを見守り、支え、応援し、地域に子どもの笑い声が広がっています。
- 子育てと仕事の両立支援により、保護者が安心して就労できる環境が整備され、家族みんながいつも朗らかに暮らしています。

人と自然が共生する環境のまち

- 一人ひとりが身近にある豊かで貴重な自然の恵みを実感し、市民自らが考え、行動する環境活動によって、地球にやさしい暮らしを実践しています。
- 気候変動の影響による自然災害、生態系全般への影響、健康への被害、農作物への影響を緩和し、適応していく取組が進んでいます。



持続的で力強く自立するまち

- 多様な産業の発展とともに新産業の創出や地域産業の高付加価値化への挑戦を応援し、世界に発信できる地域ブランドがつくられています。
- 特色ある地域産業の発展により、新たな雇用が創出され、若者の地元回帰や定着化が進み、地域産業の担い手として飯田を舞台に活躍しています。
- 「人的ネットワーク」をベースにした「知の拠点」で、様々な研究開発が行われ、国内外に新たな価値を発信しています。

地域の誇りと愛着で 20 地区の個性が輝くまち

- 地域固有の自然や文化が持つ価値をみんなが認め合い、それらが大切に保存継承され、地域づくり、人づくりにもいかされています。
- 地域を思う気持ちを大切にして、自分の住む地域に誇りと愛着を持ち続けることで、地域の価値が再発見され、個性となっています。
- その一つひとつの個性を互いに高め合いながら、飯田の魅力に磨きをかけています。

(3) 人口ビジョン

飯田市人口ビジョンは、現状の人口動向の分析を踏まえて、私たちが将来どのような暮らしをしたいかを議論し、30年先を見据えた12年後の理想の地域像を描き、30年後と12年後の人口規模を定住人口と交流人口の2つの側面から示します。

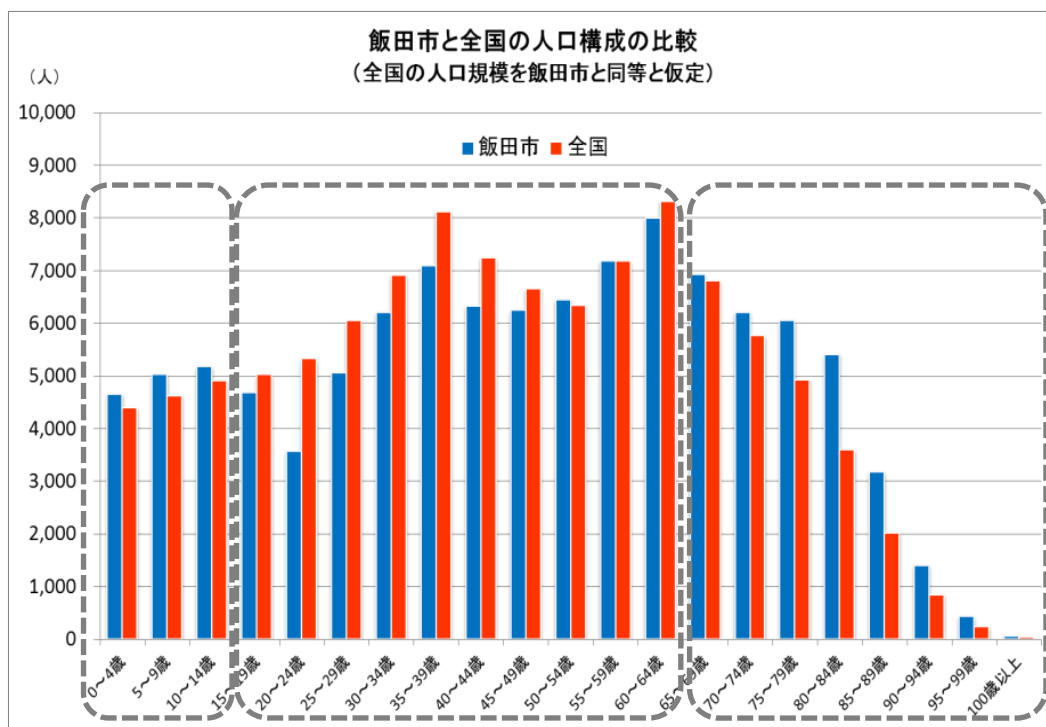
ア 人口の現状分析

変化のスピードが加速することから、変化に対応する行動が求められます。

飯田のまちづくりの姿勢は、学ぶことにあります。物事の本質を見極め、新風を取り入れて創意工夫による経験を積み重ね、応用する力を身につけます。私たちは、変化の激しい環境にあるからこそ、飯田で培われた学びの土壌で一人ひとりの「個」の力を蓄えることによって、地域全体で次代を生き抜いていきます。

(ア) 人口の推移と年齢別人口構成

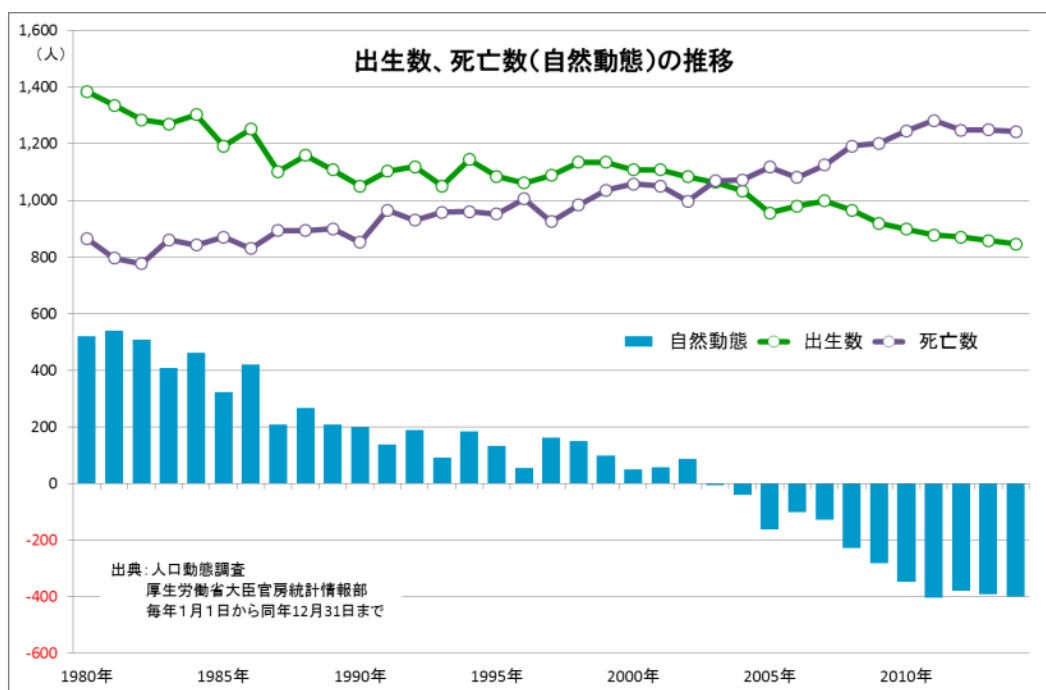
飯田市の総人口は、平成12年(2000年)の国勢調査時をピークに減少傾向にあり、平成27年(2015年)の国勢調査では101,581人となりました。日本の地域別将来推計(平成25年社人研^{*5})によると、30年後の平成57年(2045年)には約75,000人になると推計されています。人口構成の全国との比較では、0歳から14歳までの年少人口と、65歳以上の老年人口は、全国平均よりも多く、15歳から64歳までの生産年齢人口は全国平均よりも少ない値を示しています。特に、20歳台の若者が少ない傾向がありますが、これは、高等教育機関が少ない当地域において、高校卒業後約7割がこの地を離れることが大きな要因と思われます。



(イ) 自然動態 (出生数－死亡数)

飯田市は、地域全体で子育てを応援する仕組みづくりを進め、合計特殊出生率は県内19市で最も高い値を示しています。また、「市民総健康」と「生涯現役」を目指す健康増進施策にも積極的に取り組んでいます。

しかし、人口減少、少子化・高齢化の傾向に歯止めをかけられず、平成15年(2003年)以降は死亡数が出生数を上回る自然減の状態が続いています。

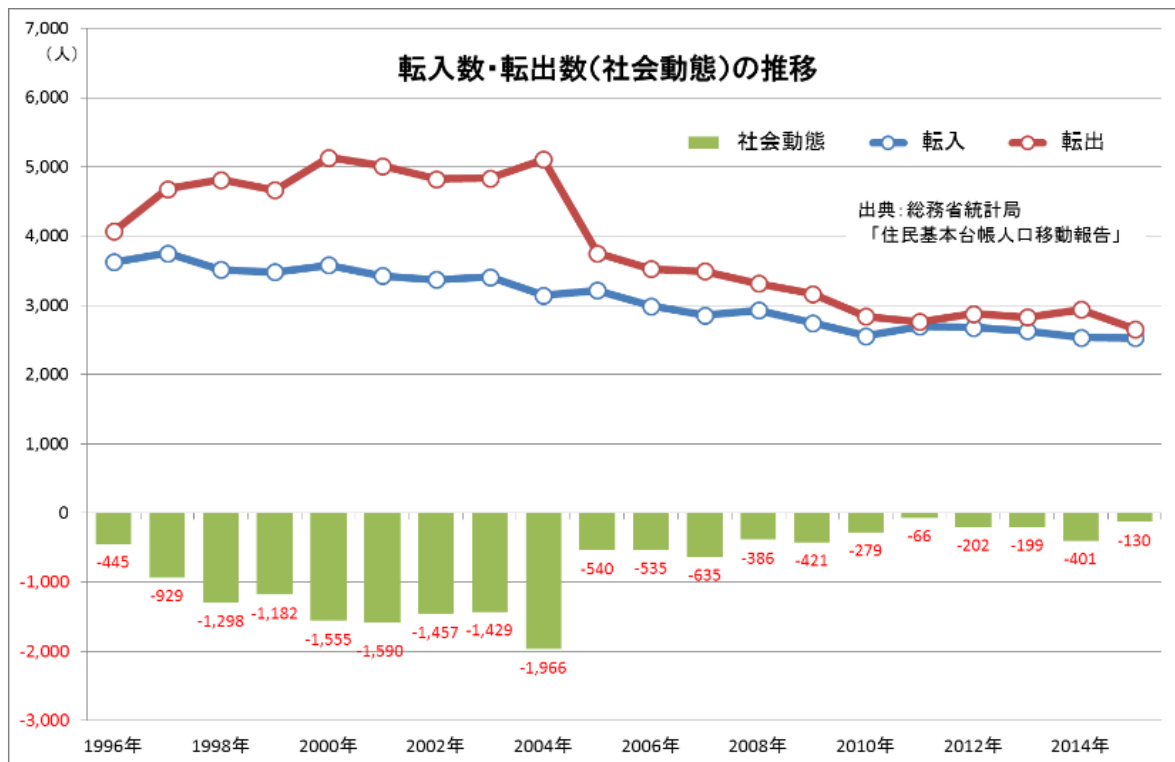




(ウ) 社会動態（転入－転出）

高等教育機関が少ない飯田市では、一旦はこの地域を離れても、再びここに戻って安心して子育てができる「人材サイクルの構築」に向けて、「産業づくり、人づくり、地域づくり」を一体的に進めています。

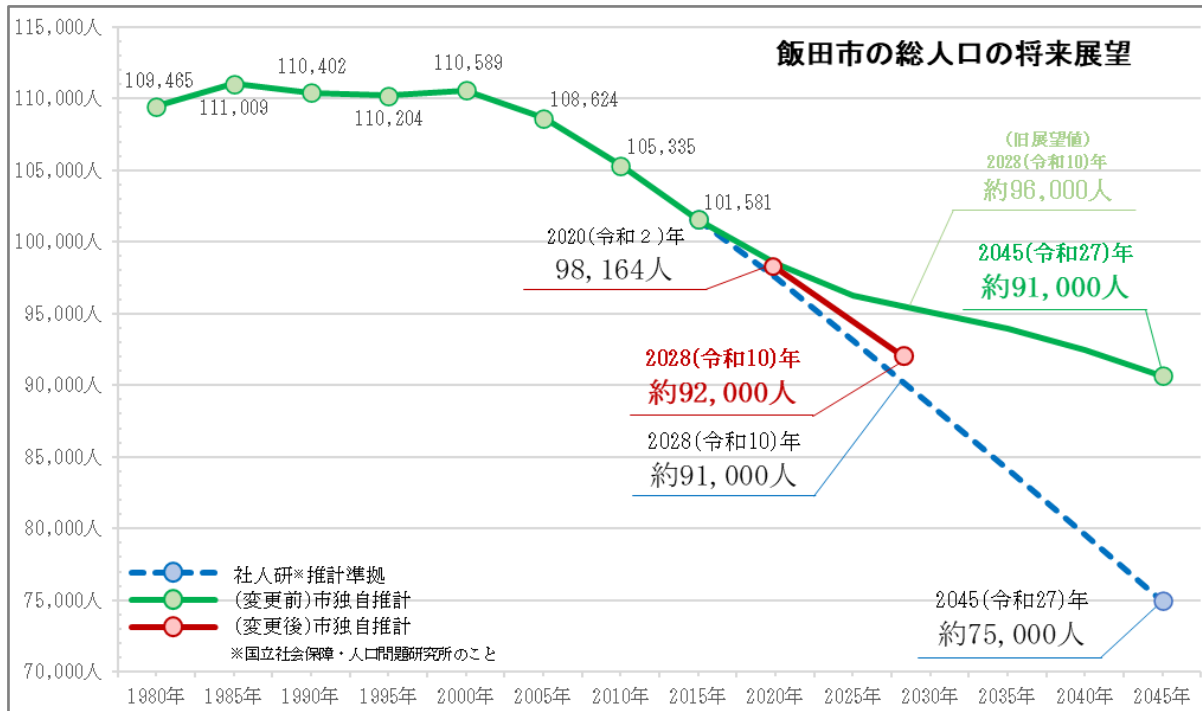
その効果もあり、社会動態は改善されつつありますが、なお社会減の状態が続いています。



イ 人口の将来展望

(ア) 定住人口

社人研推計によると、飯田市の総人口は12年後の令和10年（2028年）に約91,000人、30年後の令和27年（2045年）に約75,000人になると推計されていますが、子どもを産み育てやすい環境をいかした若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる政策や、飯田独自のライフスタイルの提案による新たな人の流れづくりなどに積極的に取り組み、令和10年（2028年）は約92,000人、令和27年（2045年）は約91,000の人口を維持することを目指します。



(イ) 交流人口

令和4年(2022年)の飯田市の休日滞在人口率(飯田市の国勢調査による対象人数に対する休日の14時に飯田市に滞在していた人数の割合)は1.05です。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により交流の仕方が多様化したこと、リニア中央新幹線の開通・開業時期が、予定されていない令和9年(2027年)から延期されたことから、休日滞在人口率を右肩上がりに上昇させることが困難な状況に鑑み、令和10年(2028年)には、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の水準である1.10(令和元年(2019年)の休日滞在人口率)まで引き上げることを目指します。

【休日滞在人口の推移及び目標値】

	これまでの推移						目標値
	平成29年 (2017年)	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	令和10年 (2028年)
休日滞在人口率	1.12	1.11	1.10	1.09	1.08	1.05	1.10

【出典】 RESAS (地域経済分析システム)

※滞在人口：指定地域に、休日の指定時間(14時)に滞在していた15歳以上80歳未満の人の数の月平均を表す数値。RESASでは、株式会社NTTドコモ・株式会社ドコモ・インサイトマーケティング「モバイル空間統計」の数値で、算出には国内に居住する外国人も推計として含まれる。

※休日滞在人口率：指定地域の人口に対する、休日滞在人口の占める割合のこと。

ここでは、滞在人口÷2020年国勢調査における対象人口(15歳以上80歳未満の人口である72,813人)で算出した数値



ウ 地区別人口展望

飯田市では、市内20地区ごとに、人口変動が地域に与える影響や目指す地域の姿を話し合い、その姿を実現するために必要な人口規模や必要な取組について検討を進めてきました。

これまで進められてきた検討の中では、目指す地域の姿として「地域全体で子育てを支える環境が整い、子どもたちの声が響きあう地域」、「若者が住み続け、帰ってこられ、活躍できる地域」、「高齢者が輝き、一人暮らし高齢者や、要介護者が安心して暮らせる地域」など、市民一人ひとりがいきいきと輝く地域の姿が掲げられています。

近年、個人の価値観が多様化する中で、自然や地域とのふれ合いを大切にする地方の生き方が再評価され、「田園回帰」と呼ばれる新たな人の流れの動きもあります。

目指す地域の姿を実現するには、それぞれの地域が個性を磨き、誰もが「住み続けたい、住んでみたい」と思う魅力的な地域づくりの取組を、多様な主体とともに進めることが大切です。



用語解説

- ※1 地域経済活性化プログラム
豊かなライフスタイルを実現できる元気なまちづくりを進めるために、若者がふるさとへ帰ってこられる産業づくりに向けて地域が一丸となって取り組む行動指針
- ※2 地域環境権
再生可能エネルギー資源から生まれるエネルギーを市民の総有的財産と位置付け、市民が優先的にこれを活用して地域づくりを行う権利
- ※3 分権型エネルギー自治
日常生活に不可欠なエネルギー事業に地域住民が主体的に参画することで持続可能な地域を構築すること
- ※4 ムトス
広辞苑の最末尾の言葉「んとす」を引用したもので、「・・・しようとする」という意味であり、行動への意思や意欲を表す言葉
飯田市は、昭和 57 年「10 万都市構想」において理想とする都市像の実現に向けての行動理念として「ムトス」を使用しました。平成 19 年 4 月 1 日施行の飯田自治基本条例にもムトスの精神について謳われています。「ムトス」を地域づくりの合言葉に、私たち一人ひとりが持つ「愛する地域を想い、自分ができることからやってみよう」という自発的な意志や意欲により、具体的な行動で地域づくりを目指していくもの。
- ※5 社人研
国立社会保障人口問題研究所の略称



長野県飯田市
Iida City

<基本構想>

いいだ未来デザイン 2028
2017(平成 29)年度～2028(令和 10)年度

<基本構想>

策定：平成 28 年 12 月
変更：令和 6 年 12 月

長野県飯田市